

# 平成25年度全国学力・学習状況調査の結果

## 伊達市教育委員会

### 1 調査結果の概要

#### (1) 全体的な傾向

小・中学校においては、全体として以下のような特徴がみられた。

○平成25年4月24日（水）に実施した平成25年度全国学力・学習状況調査の北海道における参加状況は、下記のとおりである。

	学校数（校）	児童生徒数（名）
小学校	1, 113	43, 575
中学校	631	43, 395

○伊達市は、星の丘小・中学校を除いた、小学校9校の6年生273名、中学校4校の3年生262名が参加した。

○教科に関する調査内容は、小・中学校とも下記のとおり4教科である。

- ・小学校 主として「知識」に関する問題： 国語A・算数A  
主として「活用」に関する問題： 国語B・算数B
- ・中学校 主として「知識」に関する問題： 国語A・数学A  
主として「活用」に関する問題： 国語B・数学B

○結果分析については、北海道教育委員会が㈱東京書籍に委託して分析を実施した。その結果を受けて、伊達市の調査概要をまとめた。

○伊達市の各教科における平均正答率については、次ページ「平成25年度全国学力・学習状況調査の平均正答率グラフ」のとおりである。

$$\text{※ 平均正答率（％）} = \text{平均正答数} / \text{設問数}$$

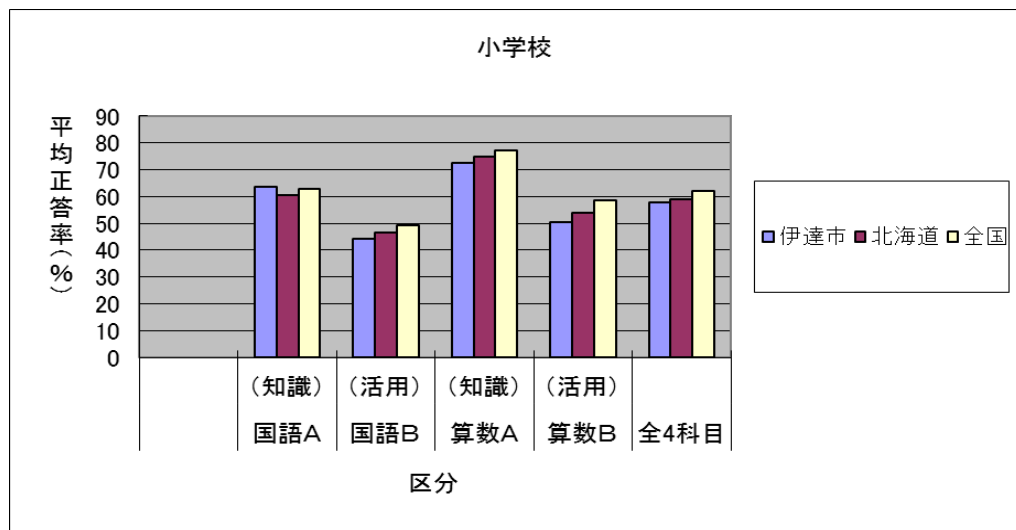
#### ◆ 《小学校》

小学校の平均正答率について、国語Aは全国、北海道より上回っているものの、それ以外はいずれも全国、北海道より下回っており、特に、算数B（活用）においては全国との差が大きい結果となっている。

#### ◆ 《中学校》

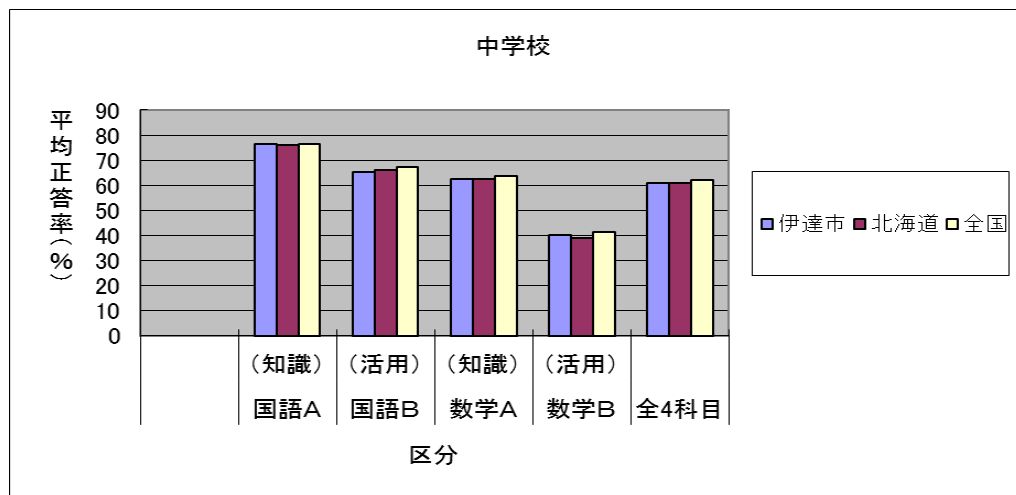
中学校の平均正答率について、国語Aは全国と同じであるが、それ以外はやや下回っている。北海道と比べると多少のプラス・マイナスはあるものの、4教科平均では同じ結果となっている。

○平成25年度全国学力・学習状況調査の平均正答率グラフ



小学校

	国語A	国語B	算数A	算数B	全4科目
	(知識)	(活用)	(知識)	(活用)	
伊達市	63.5	44.4	72.7	50.5	57.8
北海道	60.4	46.4	74.9	54.0	58.9
全国	62.7	49.4	77.2	58.4	62.2
比較:伊達市－全国	0.8	-5.0	-4.5	-7.9	-4.4



中学校

	国語A	国語B	数学A	数学B	全4科目
	(知識)	(活用)	(知識)	(活用)	
伊達市	76.4	65.2	62.3	40.0	60.9
北海道	76.0	66.2	62.3	39.1	60.9
全国	76.4	67.4	63.7	41.5	62.2
比較:伊達市－全国	0.0	-2.2	-1.4	-1.5	-1.3

## (2) 教科ごとの傾向

### (小学校)

小学校においては、以下のような特徴がみられた。

#### ◆《国語A・知識》

○基礎的・基本的な知識・技能が身についているかをみる問題：設問数18問  
伊達市の平均正答率63.5% (11.4/18) は、全国の62.7% (11.3/18)、北海道の60.4% (10.9/18) より上回っている。

#### ○学習指導要領の領域での傾向

伊達市の「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における平均正答率は、いずれも全国、北海道より上回っているが、「書くこと」は、全国より下回り、北海道よりは上回っている。

#### ◆《国語B・活用》

○基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみる問題：設問数10問  
伊達市の平均正答率44.4% (4.4/10) は、全国の49.4% (4.9/10)、北海道の46.4% (4.6/10) より下回っている。

#### ○学習指導要領の領域での傾向

伊達市の「書くこと」、「読むこと」における平均正答率は、いずれも全国、北海道より下回っている。「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、全国より下回っているが、北海道よりは上回っている。

#### ◆《算数A・知識》

○基礎的・基本的な知識・技能が身についているかをみる問題：設問数19問  
伊達市の平均正答率72.7% (13.8/19) は、全国の77.2% (14.7/19)、北海道の74.9% (14.2/19) より下回っている。

#### ○学習指導要領の領域での傾向

伊達市の「量と測定」、「図形」、「数量関係」における平均正答率は、いずれも全国、北海道より下回っている。「数と計算」は、全国より下回っているが、北海道よりは上回っている。

#### ◆《算数B・活用》

○基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみる問題：設問数13問  
伊達市の平均正答率50.5% (6.6/13) は、全国の58.4% (7.6/13)、北海道の54.0% (7.0/13) より下回っており、特に、全国との差が大きくなっている。

#### ○学習指導要領の領域での傾向

伊達市の「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」における平均正答率は、いずれも全国、北海道より下回っている。

## (中学校)

中学校においては、以下のような特徴がみられた。

### ◆《国語A・知識》

○基礎的・基本的な知識・技能が身についているかをみる問題：設問数32問

伊達市の平均正答率76.4% (24.5/32) は、全国の76.4% (24.4/32) と同じであり、北海道の76.0% (24.3/32) より上回っている。

○学習指導要領の領域での傾向

伊達市の「話すこと・聞くこと」、「読むこと」における平均正答率は、いずれも全国、北海道より上回っている。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、全国、北海道と多少のプラス・マイナスはあるものの、「書くこと」は、全国、北海道より下回っている。

### ◆《国語B・活用》

○基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみる問題：設問数9問

伊達市の平均正答率65.2% (5.9/9) は、全国の67.4% (6.1/9) 、北海道の66.2% (6.0/9) より下回っている。

○学習指導要領の領域での傾向

伊達市の「話すこと・聞くこと」における平均正答率は、全国より下回り、北海道よりは上回っている。「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における平均正答率は、いずれも全国、北海道より下回っている。

### ◆《数学A・知識》

○基礎的・基本的な知識・技能が身についているかをみる問題：設問数36問

伊達市の平均正答率62.3% (22.4/36) は、全国の63.7% (22.4/36) より下回っているが、北海道の62.3% (22.4/36) と同じである。

○学習指導要領の領域での傾向

伊達市の「関数」における平均正答率は、全国、北海道より上回っている。「図形」は、全国より下回り、北海道よりは上回っている。「数と式」、「資料の活用」は、いずれも全国、北海道より下回っている。

### ◆《数学B・活用》設問数16問

○基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみる問題：設問数16問

伊達市の平均正答率40.03% (6.4/16) は、全国の41.5% (6.6/16) より下回っているが北海道の39.1% (6.3/16) より上回っている。

○学習指導要領の領域での傾向

伊達市の「図形」、「資料の活用」における平均正答率は、全国、北海道より上回っている。「関数」は、全国より下回り、北海道よりは上回っている。「数と式」は、全国、北海道より下回っている。

## 2 分析・検証

### (小学校)

結果を踏まえて、現段階では小学校において、以下のような取り組みが求められる。

#### ◆《全体として》

##### ○学校経営

学校運営に関わる学校質問の回答結果において、全国、北海道と比較し、伊達市がいずれとも下回っている質問事項は次のとおりであり、今後、学校経営計画を策定する際に具体的な取り組みが必要である。

- ・第6学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として調べたり文章を書いたりする宿題を出しましたか。
- ・第6学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。
- ・教職員は、校内外の研修会や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか。
- ・言語活動に重点をおいた指導計画を作成していますか。
- ・学校全体の学力向上や課題について、全教職員の間で共有していますか。

##### ○課題

- ・各教科の設問や領域毎の下位の平均正答率や無解答の問題に着目し、各学校の現状子どもの発達段階や指導内容の系統性を踏まえた上で、当該学年の指導はもとより基礎となる低学年の指導や学習が積み重なる高学年での指導を意図的・計画的に行うことが必要である。
- ・国語A問題は全国、北海道よりやや上回っていたが、それ以外はいずれも下回っていたため、各問題を分析・検証の上、その結果から読み取れる課題に焦点を当て、学習指導の改善や充実につながるよう指導の在り方を工夫する必要がある。
- ・A問題に比べB問題に課題が見られ、特に算数Bの記述式の問題においては、基礎学力を実生活の様々な場面で活用できなかつたり、問題の趣旨を十分に理解できず解答時間が不足していた子どもが多く、そこに焦点を当てた指導が必要である。

#### ◆《国語》

##### ○課題

- ・低学年で習得しておくべき基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に不十分なものがあり、指導の充実が求められる。
- ・過去の調査との関連を見ると、複数の内容を含む文や文章を分析的に捉えたり関連付けたりしながら、自分の考えを書くことについて、依然として課題がある。

##### ○指導改善のポイント

- ・「話すこと・聞くこと」  
相手の立場や状況を踏まえ、適切かつ効果的に助言する指導の充実。
- ・「書くこと」  
意見を述べた文章や活動を報告する文書などを目的に応じて編集する指導の充実。

・「読むこと」

自他の読み方を交流し、効果的な読み方を工夫する指導の充実。

・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

文の定義を理解し、構成に注意する指導の充実。

◆《算数》

○課題

- ・図や表を観察して、問題の解決に必要な情報を選択することに課題がある。
- ・場面の状況や操作の意味に基づいて、式的確に読むことについて課題があり、全学年を通じて指導の充実が求められる。

○指導改善のポイント

・「数と計算」

数直線等を活用して、指定された概数になる数の範囲を捉える活動の充実。

筋道を立てて考えた過程について振り返る活動の充実。

・「量と測定」

単位量当たりの大きさを求める場面や意味を理解する指導の重視。

言葉や数、式、図、表、グラフなどの表現を関連づけて考える活動の充実。

・「図形」

合同な図形を描いたり、作ったりする算数的活動を基にした指導の重視。

見取図や展開図の見方が確実にできるようにする指導の重視。

・「数量関係」

式や計算の結果の意味を確実に理解できるようにする指導の重視。

表の数値を根拠として、二つの数量の関係が比例しているかどうかを説明する指導の重視。

割合の考えを用いて論理的に説明する指導の重視。

(中学校)

結果を踏まえて、現段階では中学校において、以下のような取り組みが求められる

◆《全体として》

○学校経営

学校運営に関わる学校質問の回答結果において、全国、北海道と比較し、伊達市がいずれとも下回っている質問事項は次のとおりであり、今後、学校経営計画を策定する際に具体的な取り組みが必要である。

- ・第3学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取り組みとして、調べたり文章を書いたりする宿題を出しましたか。
- ・第3学年の生徒に対する国語の授業として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。
- ・前年度までに、書く習慣を身に付ける授業を行いましたか。
- ・前年度までに、様々な文章を読む習慣を身に付ける授業を行いましたか。
- ・前年度までに、漢字・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか。
- ・第3学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。

- ・教職員は、校内外の研修会や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか。
- ・学習指導と学校評価の計画の作成に当たり、教職員同士が協力し合っていますか。
- ・知識・技能の活用に重点をおいた指導計画を作成していますか。
- ・言語活動に重点をおいた指導計画を作成していますか。
- ・学校全体の学力向上や課題について、全教職員の間で共有していますか。

#### ○課題

- ・小学校と同様、各教科の設問や領域毎の下位の平均正答率や無解答の問題に着目し各学校の現状、子どもの発達段階や指導内容の系統性を踏まえた上で、当該学年の指導はもとより、基礎となる低学年の指導や学習が積み重なる高学年での指導を意図的・計画的に行うことが必要である。
- ・国語B、数学A、数学B問題が、全国、北海道よりやや下回っており、各問題を分析・検証の上、その結果から読み取れる課題に焦点を当て、学習指導の改善や充実につながるよう指導の在り方を工夫する必要がある。

#### ◆《国語》

##### ○課題

- ・具体的な言語活動の中で、基礎的・基本的な知識・技能を適切に使うことに課題がある。
- ・解決した内容を客観的に見直してよりよくすることに課題がある。

##### ○指導改善のポイント

- ・「話すこと・聞くこと」  
司会の役割を理解し、状況に応じてその役割を果たす指導の工夫。
- ・「書くこと」  
目的に応じて、情報の取り上げ方や書き方を工夫して書く指導の工夫。  
根拠を明確にしたうえで自分の考えを具体的に書く指導の工夫。
- ・「読むこと」  
調べる手段の特徴を理解し、見通しをもって情報を集める指導の工夫。  
目的に応じて、文書の特徴を捉える指導の工夫。  
文学的な文章の内容を捉える指導の工夫。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」  
表現の技法について理解したことを各領域の指導に生かす工夫。  
言語への関心を高め、言語感覚を豊かにする指導の工夫。

#### ◆《数学》

##### ○課題

- ・数量の関係を文字式で表すことや多角形の外角の意味を理解することなど、身に付けておかなければ後の学習に影響を及ぼす内容の習得に課題がある。
- ・数学的に表現したり、数学的に表現された事柄を読み取ったりすることに課題がある。
- ・数量の関係を一次関数とみなして問題を解決する方法や、資料の傾向からわかった事柄などを、他の事象に活用してもとの事象との関係を捉えることに課題がある。

○指導改善のポイント

・「数と式」

正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付ける活動の重視。  
事柄と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明する指導の充実。

・「図形」

作図の方法を図形の対称性に着目して見直す活動の重視。  
証明の方針を立て、その方針に基づいて証明する活動の充実。

・「関数」

関数の意味を理解し、関数関係を見いだす活動の重視。  
事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する活動の重視。

・「資料の活用」

相対度数の必要性和意味を理解し、資料の傾向を読み取る活動の重視。  
読み取った資料の傾向を基に、事柄の特徴を数学的に説明する活動の充実。



### 3 今後の取り組み

今後、以下のような取り組みを取り進める。

#### ○教育委員会

- ①各学校に対して、改善に向けた具体的な取り組みを展開するよう指導
- ②市民へのホームページ等による結果概要の公表
- ③各学校に対して「学力・学習改善プラン」の策定について説明
- ④各学校の「学力・学習改善プラン」の成果や課題について検証
- ⑤実施主体として、平成25年度伊達市学力テストの実施 12月
- ⑥平成26年度全国学力・学習状況調査に向けた準備

#### ○学校

- ①学校における分析・検証
- ②保護者・地域への結果概要の公表
- ③学校における改善方策の検討
- ④調査責任者として、平成25年度伊達市学力テストの実施  
基準日：12月2日（月）
- ⑤学校における「学力・学習改善プラン」の策定
- ⑥学校における「学力・学習改善プラン」の具体的取り組み・実践
- ⑦「平成26年度学力・学習改善プラン」を教育委員会へ提出 4月
- ⑧平成26年度全国学力・学習状況調査の実施 4月22日（火）